

<大会開催報告>

初年次教育学会 第16回大会 開催報告

成田秀夫
桐蔭横浜大学

初年次教育学会第16回大会は、2023年9月7日・8日の2日間にわたって、初年次教育学会主催、山梨学院大学・山梨学院短期大学の共催により、山梨学院大学酒折キャンパスにて開催されました。本大会は全面対面で実施され、コロナ禍前の開催と同様に開催することができました。

久しぶりに全面対面となり、オンラインの画面越しで相まみえていた会員のみなさんと直接お話しすることができ、改めて大会を実施する意義を感じました。大会は、日頃の研究成果や実践の成果を発表し交流する場でもあります。会員相互の交流の場としても重要な意義があることに思い至りました。シンポジウムや個人研究発表の場での討論や意見交換もさることながら、休憩時間や情報交換会での交流の様子を拝見し、いわば大会の「余白」とも言える場にこそ隠れた大会の意義があるのではないかと思いついた次第です。

二日間で、全国から正会員、機関会員、賛助会員、及び非会員(招待者含む)合わせて184名の参加を得て、概ねコロナ禍前の参加人数に近づきました。ご参加いただいた会員のみなさまには心から御礼申し上げます。

また、開催にあたっては、山梨学院幼稚園の後援、甲府商工会議所、笛吹市商工会、石和温泉旅館協同組合、石和温泉観光協会、峡東地域世界農業遺産推進協議会の協賛をいただき、お力添えいただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼いたします。

さて、大会企画としましては、大会校企画シンポジウム、課題研究シンポジウム、企画セッションワークショップ5件、ラウンドテーブル5件、大会校ミニシンポジウム1件、また、自由研究発表では、学士課程教育2件、学修成果・効果測定3件、ピアサポート・中退予防3件、文章表現3件、高大接続3件、授業デザイン・共同学習3件、学修意欲・動機3件の発表がありました。いずれも日頃の教育実践、研究活動の成果を踏まえたものであり、意義の大きなものとなりました。これらの内容については別稿で明らかにされていますので、ここではそれ以外の点について申し述べたいと思います。

今大会では、三つの新しい試みを行いました。

一つは、託児所の設営です。あらゆる場で男女共同参画が求められる昨今、学会においても子育て中の会員の方が参加しやすい環境を整えることは努力義務の一つのように思われます。幸い、山梨学院幼稚園の関連施設に子育て支援センター「アルテア子ども館」があり、また短期大学の保育科のご協力を得て、大会期間中、託児所を開設することができました。実際には、二日目にお子さま1名の利用を予定していましたが、当日の朝、お子さまの体調不良のためキャンセルになってしまいました。協力いただいた施設や短大の担

当の教員には予定通り謝金をお支払いし御礼申しあげました。大会校の環境もあるため、すべての大会で託児所を設けることは困難かもしれませんが、継続的に検討されることを望みたいと思います。

二つ目は、最終日の最後の企画としてリフレクションセッションを設けたことです。通常の大会では一日目に大会シンポジウムが実施され、シンポジストを含めて情報交換会で意見交換することが多いようです。今回は大会シンポジウムが二日目になったこともあり、シンポジストとの意見交換の場を設けると同時に、二日間の大会を振り返って、大会後の教育実践、研究活動に活かせる場を設けたかったという意図もありました。参加者は学生も含め20人程度でしたが深い振り返りや意見交換ができたのではないかと思います。

三つ目は、大会終了の翌日に、実践交流会として、地域連携の観点から、農業世界遺産に登録された峡東地区の取り組みとワイナリーを探訪するツアーを企画しました。地域の方の、意義深い取り組みを直接聞くことができ、私自身も感銘を受けました。また、アテンドとして参加した2名の学生の発表では、日頃の学修や活動を通して成長した様子が具体的に分かり、参加者の方の共感も得ることができました。会員、学生、地域の交流が大会と関連した企画の中で実現することができました。

最後に、大会の運営について一言申しあげたいと思います。大会校からは、初年次教育・共通教育を担う学習教育開発センターから10名、そして留学生・学修支援部門から4名、計14名の教員(内会員は4名)に運営のご協力をいただきました。ご協力いただいた先生方には改めて御礼申しあげます。また今回は、大会が平日開催になり、業務時間帯と重なったため、職員の協力は見送ることにいたしました。しかし、その不足を補ってくれたのが学生たちでした。SAを中心とした学生(二日間で延べ19人)が協力してくれました。学生たちには単なるアルバイトではなく、大会参加者が充実感を抱いて帰っていただくためにはどうしたら良いかという「課題」を与え、自分たちにできることを自主的に考えてもらいました。また、手の空いている時間はシンポジウムや発表の見学も認めることとしました。参加者の中にはお気づきの方もいらしたかもしれませんが、シンポジウム会場で仕事が終わった学生たちは真剣に議論を聞いておりました。

大会運営の負担は大会校にとって決して軽いものではありません。今後、開催校の実情によっては、教職員、学生(院生含む)の協力が得にくい場合も考えられますので、運営の一部を外部へ委託するなど、開催校に負担のかからない方策も検討する余地があると思われます。

以上、大会開催報告とさせていただきます。

(初年次教育学会第16回大会実行委員長)